岐阜新聞真学塾

出題　螢雪ゼミナール 大垣駅前校・築樋拓真

問題【国語】

次の文はある小説の冒頭部分です。後の問いに答えなさい。

吾輩は（　）である。名前はまだ無い。

問１（　）に入る動物を書きなさい。

問２　この作品の作者の名前と上の作品以外の代表作を答えなさい。

豆知識 雑学コラム　文豪の名はペンネーム

今回は夏目漱石についてみていきましょう。夏目漱石は学校の教科書にも載っている『坊っちゃん』や『こころ』などの作品で有名な明治から大正時代を代表する作家ですね。また、今の野口英世になる前の千円札に描かれていた人物で、「千円札のおじさん」として顔を覚えている人も多いと思います。一方で、どこがすごいのかというとピンとこないかもしれません。今日は夏目漱石についてみていきましょう。

そもそも夏目漱石の『漱石』は本名ではなく、ペンネームなのはご存じですか。『漱石』の名前は中国の故事の『漱石枕流』が由来になっています。『漱石枕流』とは、昔、孫楚という人物が「石を枕にして、川の流れで歯を漱（すす）ぐ」というべきところを「石で歯を漱ぎ、川の流れを枕とする」と言い間違えたものの、そのことを認めず屁理屈を話してその場をごまかしたという逸話から、屁理屈やこじつけのうまい人という意味です。この故事をペンネームにしていると聞くと、夏目漱石はいつも屁理屈や言い訳ばかりしているように感じてしまいますね。実際に、夏目漱石は屁理屈やこじつけのうまい人だったのでしょうか？

夏目漱石はひらがなの言葉に適当な漢字をこじつける当て字が得意だったのは有名な話です。「とにかく」を「兎に角」、「うるさい」を「五月蠅い」と初めて書いたのは夏目漱石だったと言われています。「とにかく」は「兎（うさぎ）」や「角（つの）」と全く関係なく、どんな由来なんだろうと思っていた方もいるのですが、漱石の当て字がもとだったんですね。

さて、現在「兎に角」、「五月蠅い」は辞書などにも載っている一般的に使われる表現ですよね。自分が作り出した言葉が、日本中に広がり、日本語として定着するなんて、すごいことだとは思いませんか。今使われている日本語の単語を作った人と思うと千円札に描かれるのも納得できますね。

【解答】

問１　猫

問２　作者：夏目漱石

作品：『坊っちゃん』、『こころ』、『夢十夜』、『それから』など